

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300037		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり山手		
所在地	北広島市山手町6丁目4番		
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町村受理日	平成25年8月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300037-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が今持っている力を維持出来る様、必要以上に手は出さず、見守りをしながらその方にあった介助を行っている。
ADEの維持にラジオ体操を始め下肢運動に力を入れています。
食事前には、嚥下体操をし、耳の不自由な方には、バタカラ体操の表を作り皆さんが参加できるように努めています。
毎月外出レクを行い、外の空気を感じてもらい、外食をして普段とは違う食事や雰囲気を楽しんで頂いています。
地域との関わりや交流を大切にしており、町内会の催しに参加したり、ホームの催しや避難訓練に来て頂き協力体制がが出来る。また気軽に挨拶を交わしたり、散歩の際近所の方の庭先を見せていただけるといった、良好関係を保っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR北広島駅からバスで10分程度のバス停前に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。周辺は静かな住宅地で、近くに小中学校や大きな公園があって緑が豊かで、隣には小規模のスーパーマーケットや床屋などもあり利便性が優れている。開設後3年の新築の建物のため、室内は清潔でバリアフリーが行き届き、浴室やトイレ、洗面所なども使いやすく造られている。開設後、徐々にグループホームが地域に受け入れられてきており、小学校の学芸会見学、住民の避難訓練や救急救命訓練、バーベキューなどへの参加など様々な交流が進んでいる。地域との交流は理念の中でも重視され、職員全員が理念を理解し、実践につなげている。また、市や地域包括支援センターとの連携も密に取っており、運営推進会議にも複数の家族が順番で参加し、幅広い意見を得ることができている。職員同士のコミュニケーションも良好であり、それぞれの職員が役割を持って運営に参加している。災害対策の面では計画的な訓練の実施と、消防や地域の協力体制を整備している。日々の散歩や外浴の他に、外出行事を頻繁に行っており、花見や紅葉狩り、ショッピングセンター、カラオケ、道の駅など、様々な場所に外食を兼ねた外出を行っている。利用者や家族の意向に沿った運営を進めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(1階つつじ館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム概念「地域の人々とのふれあいを大切にいただくさんの笑顔とやすらぎのある暮らしを送っていただけるよう支援します」を朝礼で復唱している。	事業所独自の理念の中に「地域の人々とのふれあいを大切に」という文言を加え、地域密着型サービスの理念として確立している。理念はパンフレットや共用部分に掲げ、毎朝の朝礼で唱和し、職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には公園のゴミ拾いを行ったり、挨拶を交わし花だん等を鑑賞させて頂いたりして住民との交流を持っている。回覧板を手渡しでまわしている。	地域のごみ拾いに参加したり、小学校の学芸会に利用者と見学に出かけている。幼稚園との交流も計画している。また、事業所の避難訓練や救急救命訓練、バーベキューなどに地域の方の参加を得て交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症の人への理解や支援の内容を説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの行事や内容や入居者様の様子を報告し町内の方や民生委員、家族から意見を聞きサービスの向上に努めている。	運営推進会議は2か月毎に開催しており、市や地域包括支援センター、町内会長、複数の家族の参加を得ている。外部評価や疥癬、防災、口腔ケアなどをテーマに意見交換しているが、運営報告が中心となっている。	会議のテーマを年間を通して計画的に設定し、事前にテーマの案内も行うことで、より幅広い意見を収集してサービス向上に活用することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、市町村担当と他グループのホーム長との集まりに参加し情報交流を行っている。	運営推進会議に市や地域包括支援センターの参加があり、意見をj得ている。また、不明な点があれば市に直接相談している。3か月毎の北広島グループホーム部会に出席し行政担当者と情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は積極的に研修等に参加し、また日常においてはお互いにどんな事が身体拘束に繋がるのかを話し合っている。密な見守りや声かけで安全面に配慮した自由な暮らしを支える取り組みをしている。	禁止の対象となる具体的な行為を記した身体拘束のマニュアルが整備されているが、全職員の禁止行為への理解は十分といえない。玄関は日中施錠せず、中から開錠できる自動ドアとなっている。玄関へのスライドドアの上部にチャイムをつけ、出入りがわかるようにしている。	禁止の対象となる具体的な行為11項目について、全職員が理解できるよう、定期的な勉強会や、研修への参加を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内に虐待防止に関する委員会が有り各事業所の委員は事業所内で虐待が無いかに注意を払っていると共に虐待防止マニュアルを事務所の目の付くところに置き職員は読んで習得するよう努めている。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に研修や講演に参加しその内容を周知できるよう話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と話しあう時間を設け、信頼関係を築けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事などの参加を呼びかけ意見を伺っている。また話しやすい雰囲気づくりに考慮している。	家族が頻繁に来訪し、運営推進会議にも順番に参加しているため、多くの意見を得ている。また、法人で家族アンケートも実施し、意見を事業所の運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ホーム会議やユニット会議においてホーム長から運営の状況を報告、説明し、職員と話し合っている。	月1回、全体会議とユニット会議を開催しており、職員が活発に意見交換している。年2回、管理者と職員の面談も行っている。職員は事故防止や車両、通信、献立、物品管理などを分担して担当し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は自己の目標を定めて掲示し、それを踏まえて年2回自己評価をし、ホーム長と職員で面談を行い個々の振り返りの機会をもっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社より、研修の機会を設けている。また、職員間で月に1回勉強会を開きスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者の集いに参加し、交流会として年に1度お互いのホームへ訪問している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様にお話を聞いたり日々言葉かけや傾聴など行い話しやすい環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり十分なアセスメントを行い、家族様の不安や要望を聞き取れるよう努め、入居後も交流を持てるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のニーズを把握し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、やりたい事を尊重し料理の下ごしらえや掃除、食器拭きなどを身近な家事と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現在の様子などを説明し、ご家族様から話や要望を聞き、互いの理解が深まるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙で連絡がとれるようにし、友人、知人が気軽に立ち寄れるよう配慮している。また、行きたい場所には極力行ける様支援している。	友人や知人が来訪する方もおり、来訪者を歓迎している。また、知人との電話のやりとりも支援している。隣にある床屋やスーパーが馴染みの外出先となっている。また、外出行事を企画する際に、利用者の希望を反映している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のきっかけを作ったり、橋渡しなどをスタッフがを行い、日々入居者様同士が関わり合える様努めている。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去以降、今までどの様な事があったか、相談を受けたら情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体操、散歩、歌、個々の好きな事を行うようにしている。声かけによる反応、動作などにより意向の把握に努めている。	利用者の思いや意向は、言葉や表情、しぐさなどから把握している。利用開始時に個人票を作り、センター方式のアセスメントも「できること・できないこと」シートを中心に作成を進めているが、生活歴等の情報の蓄積は十分といえない。	利用開始後に得られた生活歴や暮らしの情報について、蓄積し共有するしくみの充実を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族様より情報を聞き取り、その人の好みを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	傾聴、見守り、お手伝い等を通して、現状を把握している。またスタッフ間で情報を共有し、日々の変化の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の動作、行動を把握し、家族より生活歴を聞き取り、計画に反映している。介護計画の更新にはセンター方式を活用し担当を中心にモニタリング、カンファレンスを行っている。	利用開始時には2週間、その後は3か月毎に介護計画を見直し作成している。見直しの際はモニタリングとカンファレンスを行い、評価内容と更新後の計画を家族に説明している。ケース記録に計画目標を載せ、目標に沿った支援と記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の記録、時間別の記録、入浴の記録を見直し、担当を中心にユニット会議にて話し合いをしている。また、大きな変化が見られる場合はその都度、ミニカンファを開き介護計画の見直しについて話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今日は何をすると決まっても、その日の天候、体調、本人の気分等により、中止したり予定と違う行動に換えたりと工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での祭り事や公園でのゴミ収集の参加など行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を月二回、個人での通院介助、家族対応と個々の係りつけに通ってもらっている。	協力医による月2回の往診があり、その他の通院も必要に応じ事業所で支援を行っている。受診内容はパソコン上の「特記事項」に記録し、共有している。	

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護師が入り、受診経過や体調面や日々の様子を報告し、わからないことなどを相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診には職員が同行したり、提携医による月に2度の訪問診療を受けているので何時でも相談できる関係になっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを行ってなく、該当しない。	全家族に「重度化・看取りに関する指針」を示し、事業所の対応可能な範囲や方針を説明している。重度化した場合は同意書を交わすこととしている。過去に重度化した場合は医療機関に移ることが多く、看取りにまで至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回以上のユニット会議内で話し合い、統一したケアの実践に取り組んでいる。又月1回、勉強会を開き、病気の理解や対応法について話し合い、適応力をつける取り組みをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防と連携をとり、指導の下様々な想定避難訓練を行っており、その際には町内会の協力もお願いしている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防や地域の協力を得て実施しており、職員の救急救命訓練も定期的実施し、訓練に住民の参加も得ている。災害時の備蓄品も用意されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様本人の意思をくみあげ、尊重し傾聴しながらその方に寄り添った言葉掛けを行っている。	各人を尊重した丁寧な言葉かけを心がけ、不適切な言葉使いがあればその都度注意を促している。記録類は、他者に見えないように配慮して記入している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴したり何気ない会話を増やし、本人が希望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の過ごしやすさを考慮、優先し言葉掛けを行い、本人の言葉や行動を見守りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保つように気配りをしながら、本人の意思を尊重し自分のペースで出来るよう声掛けや介助をしている。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を盛り付けていただいたり、下膳を行って頂いている。入居時に聞いた好みや普段の食事から苦手なものも調べている。又、入居者様が食器拭きをして頂くこともある。	職員が交代で献立を作成し、利用者の希望に応じて食材を活かしてメニューを変更する事もある。ドライブを兼ねた外出行事で外食を楽しんだり、誕生日に希望の食事に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや塩分制限のある方には量を少なくしたり薄めたりなどをして、それぞれの摂取量や食べやすい形状を把握して提供している。1回の水分摂取量を記録し1日通して必要量が摂れる様声をかけたり促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方には自分でして貰い、終わった後にスタッフが確認したり、仕上げなどを行っている。介助が必要な方も出来るところは声をかけなが見守りし、足りないところを介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ペースを把握し時間毎にトイレ誘導を行っている。	全員の排泄を記録して、声かけが必要な利用者には耳元で話しかけてトイレ誘導を行っている。立位が困難な場合や、本人や家族の意向で、夜間のみおむつを使用する場合もあるが、可能な限り布パンツにパットを使用してトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物や乳製品を提供したり、運動やお腹のマッサージを促して行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同姓介助を行い、本人が希望した時間帯に入れるようにしている。また入浴を楽しんでもらえるよう好きな入浴剤を選んで貰っている。	毎日、午前中から午後まで入浴が可能で、本人の希望に応じた時間帯で週2回以上入浴できるように支援している。毎回浴槽のお湯を入れ替え、本人の好きな入浴剤を使用したり、湯温、入浴時間の長さなどに配慮して入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	電気を付けたままとか、テレビを見ながらとか、個々の安心して眠りにつく習慣を大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬によって食してはいけない物をスタッフ全員把握して疑問があれば、医師に相談や質問をし理解するよう努めている。確実な服薬支援が出来る様2重3重のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の張り合い、楽しみが持てるよう、花の水遣りや掃除、台所の手伝い、歌唱レクリエーション用の歌詞カード書きなど本人が得意な事、好きなことをして貰っている。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 つつじ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は声かけで散歩に出掛けている。月に一度はレクレーションを企画し、外食等を楽しんで頂ける様取り組んでいる。	冬季以外は、天候に応じて、目の前の公園や近隣の散歩、買い物などに出かけている。また、毎月外出行事を行い、開拓博物館やカラオケ、道の駅やショッピングセンターなど様々な場所に数人ずつ出かけている。冬季も、外食ドライブや通院などで外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっており、家族とも相談して必要なもの、本人の欲しい物を購入出来る様に支援し、毎月使用明細を家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使いたい人はいつでも自由に使えるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿器を2台設置して湿度を保てるようにしている。気温の高い日は窓を開けて外の風をいれ涼しく過ごせるようにしている。1日に2回職員が気温、湿度のチェックをしている。	各ユニット玄関に、ウイルスなどを除去する加湿器を設置して、感染症などに配慮している。観葉植物や季節感のある七夕の短冊などを居間にさりげなく飾り、家庭的で落ち着いた環境作りを行っている。洗面所の鏡は、車椅子利用者なども見やすいように傾斜しているものを設置し、設備面も工夫した造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテーブル席のほか、ソファを置いて自由に座ってくつろいで頂ける様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居された時に今まで使い慣れたもの好みのものを置いて頂き、本人が居心地よく過ごせるように配慮している。	利用開始時に、各利用者が馴染みの物を持参しており、落ち着いて過ごせるようにしている。使い慣れたタンスや鏡、テレビなどを配置し、家族の写真や自分の作品を壁に飾り、居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、リビング内には手すりが付いていて安全に歩けるようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300037		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり山手		
所在地	北広島市山手町6丁目4番		
自己評価作成日	平成25年7月10日	評価結果市町村受理日	平成25年8月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階つつじ館 ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300037-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年8月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階かえで館 アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念に地域のふれあいを加え小学校の学芸会を観に行ったりしている。また、今年は夏祭りを計画し、家族・町内会参加型を行う予定。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のごみ拾いに参加。消防の避難訓練には町内会の方にも一緒に行き、ホームでの救命救急の講座を開いたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症の講座を行ったり、質問なども受け、説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動・事故報告・入居者の様子などの報告を行い、参加者の意見を聞きサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では、グループホームのホーム長の集まり・市町村の担当者の元へ赴いたりして連携を密に計っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に積極的に参加し、資料を職員全員で共有し理解している。また、ホーム内で勉強会を開き再度確認し、自由な生活ができるよう支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内に虐待防止委員会が置かれており、各事業所の委員は各事業所内で注意を払い、必要の応じて虐待に関する知識を職員全体に周知している。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参加出来る人は、講習、講演に参加し、資料を皆で共有し話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	普段より、家族様の疑問や質問等に答え、信頼関係を築いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事、運営推進会議への参加の声掛けを行い参加を頂いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、ホーム会議を行い、意見交換を行い、又、管理者、ユニットリーダーはいつでもスタッフの質問等答えるよう勤めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価を行い日々自分を振り返る機会を設け、又、研修制度があり介護について学ぶ機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社より、研修の機会を設けてもらい、その都度、自己評価をおこなう。 施設においては毎月スタッフが順番で勉強会を開きお互いに学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの管理者の集いに参加している。 他ホームに見学に行き、相手にも来て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけながら本人との信頼関係を築いていくに従い、1対1の時間を持ったり、集団での会話の中で、求めているものを少しずつ理解していつている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望と本人のADLの状況、一日の過ごし方を把握していきながら、家族の方と相談していくことで安心した生活を送っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族のニーズを把握し支援に努め、その上で他のサービス利用にも積極的に取り組み、新たなニーズ、潜在能力を引き出す。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで、本人がどのような暮らしをしてきたのかを把握し、ホームでの暮らしの中での生きがいを一緒に考えていく。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の様子を伝え、要望を聞くように努める。レクの参加の声掛けにも一緒に参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙・電話・面会にて行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席での会話や、スタッフがきっかけを作ることにより関わりを持ってもらっている。食後の茶碗拭きなどもお互いに協力しながら片付けをして頂いている。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後・入所・入院の情報提供や相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望やこちらからの声掛けなどで、散歩・買い物・散髪に同行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より聞き取りを行い、入居前の情報を必要に応じ観覧している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・申し送りなどで行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な記録を重視しモニタリングの見直しを行い、ミニカンファレンス・全体のカンファレンスを開き、アセスメントの評価、介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・日報・特記事項を申し送りし、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時その日の体調に合わせたケアを取り入れ対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の資源回収や、祭り、近所のごみ拾いなどに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、または馴染みのある係りつけの病院の好きなほうを利用して頂いている。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師が入り、体調の変化や受診経過など、日々の変化を報告し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時には職員が同行し、気軽に相談できるよう関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りケアを行っていない為取り組んでいない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様のに変化が有ったりすると、カンファレンスを行い、対策をする。毎月、勉強会を行い緊急時対応、病気の変化の際の対応などを話し合いケアの統一を計っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民参加の救急救命訓練・避難訓練を行い、消防との連携をとり、地域の方にも協力をお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴し本人の意思を尊重しながら言葉掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し多くの会話の中から、本人の希望を言ってもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体で行う事があっても本人が嫌だとあれば無理には誘わず本人のペースにまかせ何をしたいのかを普段より様子観察しその日にあった行動が出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保つように気配りをし、髭剃りや更衣・整容に対し、本人のペースで出来るよう声掛けや介助をしている。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と盛り付けや簡単な調理(皮むき・野菜を切る)と一緒にしている。下膳や茶碗拭きなども声掛けをし一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限のある方には量を少なめにし、カロリーの低い物を提供し水分の取れない方にはおやつ時にゼリー等で水分を補って頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力にて行えるところまで見守りし、仕上げや確認をスタッフが行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分の摂取量を把握し時間を見てトイレの声掛けを行う。立位の取れる方にはトイレでの排泄を行う様支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の動きを良くする食事や運動、水分の促し、マッサージなどを取り入れ行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	必ず本人に入浴するか確認し決めている。朝に入浴希望があれば朝にも入れるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不安を感じる方には傾聴し不安を取り除いていただき、テレビを見たい方には見ていただき眠くなったなら寝て頂くようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬によって食してはいけない物は職員全員把握し疑問があれば、医師に相談をしたり、質問し理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事を見つけ、家事支援や外での花植えを行っている。散歩も楽しみにしている方には外の空気に触れて頂いている。個人レクとしたまに外へ好きな物を食べに行く。		

グループホーム みのり山手

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 かえで館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には一人一人に声掛けし散歩にでかけ、外レクは毎月、場所を考え季節にあった所へ出かける工夫をし、イベント時は地域の方、家族参加がたで食事などを楽しんで頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は自分で管理して頂き欲しい物がある時は自分で支払いも行って頂いている。自己管理出来ない方にはお小遣いを預かっているのでほしい物は御家族様に了解を得て購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人がしたい時に使えるようにしている。ハガキ、切手の購入、ポストへの投函の支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿器を常に稼働し、入り口には殺菌効果のあるソリューションを設置。入居者の見えるところに花を飾るなど、季節を感じて頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の配置を考え、話しの合う型同士にしたり、窓際にテーブルを置き外の景色を眺めるなど、又ソファをリビングに配置しており、気のあった方でテレビを一緒に観るなどしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具や私物を置き、家族の写真や絵などを飾り過ぎて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置しており安全に移動が出来る様しており、歩行場所には物を置かないよう配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム みのり山手

作成日：平成 25年 8月 14日

市町村受理日：平成 25年 8月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	入居者様の入居後に得られた生活歴や暮らしの情報について蓄積し、職員間で共有するしくみの作成。	誰が見ても分かりやすく、その人の生活歴が確認できる。	センター方式のB-1,B-2,B-3,B-4を活用し作成していく。	3ヶ月
2	6	身体拘束に対する職員への理解、定期的な勉強会や、研修への参加。	全職員の身体拘束への理解。	・身体拘束マニュアルの該当する具体的な行為を、勉強会で理解出来るよう説明する。 ・定期的に研修を入れていく。	1ヶ月
3	4	運営推進会議の会議テーマを事前に家族様へ案内し、多くの参加、幅広い意見を収集し、サービス向上に活用すること。	運営推進会議の年間(6回)テーマの作成。	年間テーマを作成し、家族様への案内を行う。	1ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。